患者さまと井上眼科病院をつなぐ「眼」の情報ペーパー

INOUYE EYE Note

井上眼科の緑内障治療

先生の、見つめてきたもの〈vol.04〉 田中院長
日帰りで行う手術について / いいもの見つけた！

140TH SINCE 1881 INOUYE EYE HOSPITAL GROUP 140th ANNIVERSARY

ご自由にお持ちください。

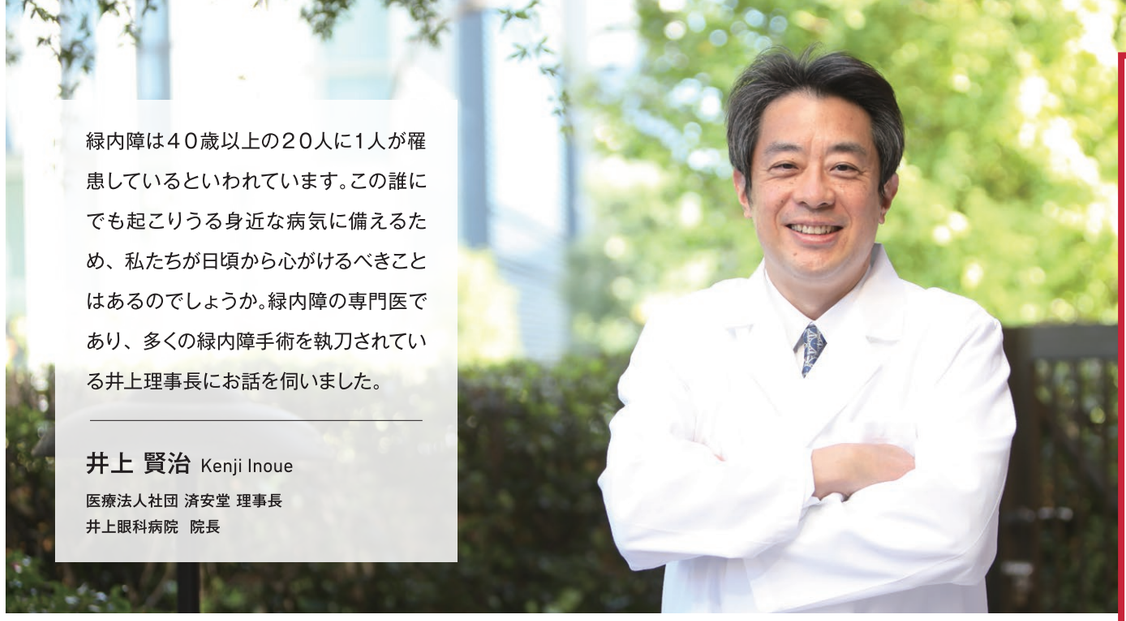
井上眼科だより 2022 WINTER vol. 119

医療法人社団 済安堂
井上眼科病院グループ
INOUYE EYE HOSPITAL GROUP

公式フェイスブックで最新情報を発信しています。

井上眼科の緑内障治療

眼科ドックで緑内障の早期発見・早期治療を。



緑内障は40歳以上の20人に1人が罹患しているといわれています。この誰にでも起こりうる身近な病気に備えるため、私たちが日頃から心がけるべきことはあるのでしょうか。緑内障の専門医であり、多くの緑内障手術を執刀されている井上理事長にお話を伺いました。

井上 賢治 Kenji Inoue

医療法人社団 済安堂 理事長
井上眼科病院　院長

Q 緑内障の主な症状と治療法

A. 緑内障は、眼圧（眼の中の圧力）が上がることで視神経に異常が起きて視野が徐々に欠けていき、最終的には失明にいたることもある疾患です。人間の目はうまくできていて、片目の一部が見えにくくても両目で視力を補って見てしまうので、自分では視野の欠損に気づきにくいんですね。このように日常生活では自覚症状が出にくいため、病状が進んでしまうケースも少なくありません。

初期は主に点眼治療を行います。近年では、早い段階から適切な治療を受けることで、生涯、ある程度見え方に不自由なく日常生活を送ることができるようになっています。しかし、点眼薬だけでは効果が不十分な場合には手術を行います。緑内障により一度失われた視力や視野は、残念ながら元に戻りません。しかし根気よく治療を継続することで緑内障の進行を遅らせることは可能です。

Q 日本人に多い「正常眼圧緑内障」とは？

A. 一般に、眼圧が高いと緑内障発症のリスクが高いといわれています。ところが最近は正常な眼圧なのに緑内障を発症する「正常眼圧緑内障」の方が増えています。一般的な健康診断の検査項目にも眼圧検査はありますが、緑内障の早期発見の検査としては十分ではありません。眼圧検査に加え、眼底検査や視野検査などの専門的な検査をしなければ、緑内障の予兆を正確に見つけることは難しいのが現状です。

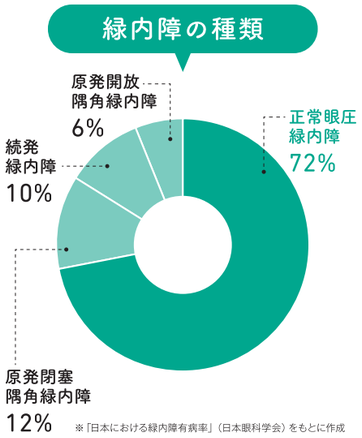
Q 早期発見・早期治療のために年に一回は眼科検診を推奨

A. おそらく、皆さまは定期的に自治体や企業などの健康診断を受けていらっしゃると思います。そのタイミングでぜひ「眼科ドック」の受診をお勧めします。眼科ドックでは専門機器による詳しい検査を行います。特に強度の近視、ご家族に緑内障の方がいるなどリスクの高い方は、積極的に検診を受けていただきたいですね。自覚症状がないのに眼科へ行くのはなかなか大変だと思います。しかし、一年に一度、眼科で検診を受けることを習慣づければ、確実に緑内障の早期発見・早期治療につながります。緑内障に備える方法はこれ以外にはないと言ってもよいでしょう。生涯、「見える目」を維持するために、日ごろから眼のメンテナンスを心がけてください。

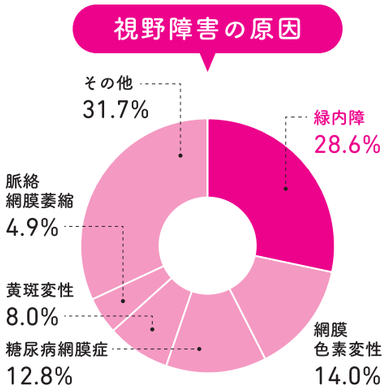
まずは知りたい「緑内障」のこと

データで見る緑内障

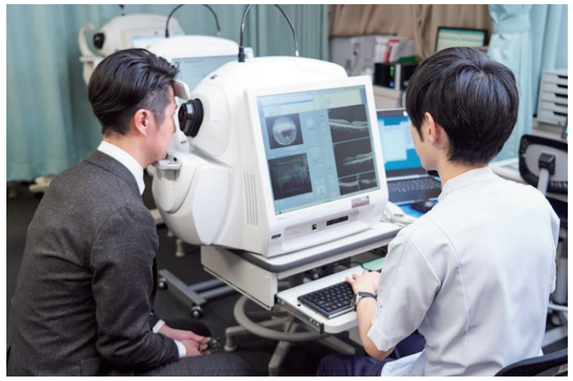
日本人の視野障害の原因第 1 位は、緑内障です。一般的には「眼圧が高いと緑内障になるリスクが高まる」と言われていますが、実は緑内障患者の約 7 割は正常眼圧緑内障なのです。人によっては視神経が圧力に弱く、正常な範囲内の眼圧でも耐えられないことがあると考えられています。



※「日本における緑内障有病率」（日本眼科学会）をもとに作成



※Morizae Y.et al : Incidence and causes of visual impairment in Japan : the first nation-wide complete enumeration. Survey of newly certified visually impaired individuals. 63:26-33.2019より作図



三次元眼底解析検査（OCT）：
赤外線で眼の中の断層撮影を行い、網膜の層の状態などを確認します。

定期的な検査を受けましょう

初期に自覚症状がほとんどない緑内障は、眼科を受診して、詳しい検査を定期的に受けることが早期発見につながります。中でも「眼底検査」は眼の奥の網膜を撮影して視神経の状態をチェックする重要な検査です。現在の特定健診では、地域によって必須項目ではないこともありますので、眼科で眼の状態を定期的に確認するようにしましょう。さらに当院には、「OCT」といわれる三次元の画像解析装置を用いた検査方法もあります。緑内障になる手前の段階である“前視野緑内障”のうちから発見の可能性が高まり、より早く治療を始めることができます。

緑内障の治療について

緑内障治療には、大きく分けて薬物療法・レーザー治療・手術の3つがあります。治療の基本は眼圧を下げることで、点眼薬を用いるのが第一選択です。それでも、視野障害が進行していく場合には、レーザー治療や手術を考えます。お茶の水や西葛西には入院施設も完備していますので、重症の患者さまの手術にも対応が可能です。緑内障治療は視野が回復したりすることがなく、症状が改善している実感がわきにくいので、継続するのが難しい方が多いのも事実です。日々の生活の中で継続できる工夫をアドバイスしたり、治療の重要性を丁寧にご説明して患者さまをサポートしていくことを大切にしています。ぜひお気軽にご相談ください。

緑内障手術

的確な診療と気さくな人柄で患者さまから厚い信頼を寄せられる田中院長。若きリーダーの原動力とは…

田中 宏樹
Hiroki Tanaka
西葛西・井上眼科病院 院長

2007年筑波大学医学専門学群卒。
2014年に西葛西・井上眼科病院に入局し、医局長、副院長を経て、
2021年5月に西葛西・井上眼科病院院長に就任。

子どもの頃からの夢は、サッカー選手になること

物心ついてから現在まで、サッカーとの付き合いは長いですね。小学校から大学までずっとサッカー部で、サッカーに打ち込んでいました。うちは代々医師の家系でしたが、親から医師になれと言われたことはありません。ただ、医学部進学率がとても高い学校だったので、大学は医学部に行きました。サッカーを思いきりできる環境を求めて筑波大学に進学し、ハードな練習の日々でしたが、厳しい環境に身を置くことで、体力的にも精神的にも大きく成長できたと思います。

おとずれた転機と眼科医としてのキャリアのスタート

卒業後は、自分なりにやり切ったという思いもあったので、気持ちを切り替え医師になる決心をしました。眼科医を選んだ理由は、手術後すぐに治療効果を実感できることが多く、患者さまの喜ぶ顔を見られるのが嬉しかったからです。医師になりたての頃は、総合病院の眼科で早朝から深夜まで無我夢中で働きました。睡眠時間もまともに取れないほど忙しかったのに、不思議と大変だと思ったことはなかったですね。体力には自信がありましたし、素晴らしい先輩方にたくさん助けていただいたおかげです。
現在は主に専門外来で白内障と網膜硝子体の手術を担当しています。硝子体手術は網膜剥離や糖尿病網膜症に適応され、眼科分野でも特に繊細で難しい手術とされています。難しい分やりがいもありますし、なによりも患者さまのお役にたてることが自分にとっての励みにもなります。

不安を抱えている患者さまの心を軽くしたい

院長となった今と新人時代の忙しさはまったく別ものですね。組織をまとめる責任ある立場になり、私ができることは何かという問いは、いつも頭の中にあります。サッカーも医療もチームプレーです。例えば些細なことかもしれませんが、働きやすいよう職場のルールを少し変更してみる。そうすることで、院内の雰囲気が良くなり、それが患者さまにも伝わる。そのような良い連鎖が起きるといいなと思っています。
ときどき、こちらに遠慮されているのかな？と感じる患者さまがおられます。疑問や不安に思うことが少しでもあれば、どうぞ気軽に私にお話してください。診察をお待たせしてしまうこともあるかと思いますが、皆さまに安心して受診していただけるよう、今後も変わらず心のこもった診療に努めたいと思っています。

西葛西・井上眼科病院は、眼の疾患に関することならオールマイティに対応しています。地域の患者さまに頼りにしていただける病院でありたいですね。

日帰りで行う手術について

札幌・井上眼科クリニックでも、緑内障の患者さまが日々多くいらっしゃいます。患者さまに対して、どのような治療に取り組んでいるのか、清水院長にお話を伺いました。

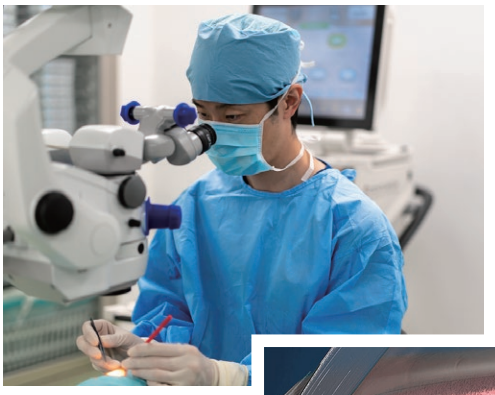
清水 恒輔
Kosuke Shimizu
札幌・井上眼科
クリニック 院長

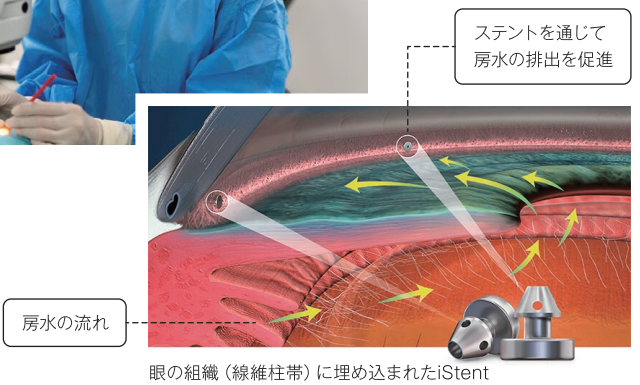
治療体制について

札幌・井上眼科クリニックでは、早期発見が重要な緑内障に関して、眼科ドックや緑内障検診を実施し、早めに治療をスタートできるような取り組みを行っています。地域の方向けに市民公開講座を開催し、その中で個別の医療相談をすることで来院するきっかけができる方も多くいらっしゃいます。
治療の体制については、緑内障の専門外来を当院グループの井上理事長が担当し、診療だけでなく他の病院からのセカンドオピニオンにも対応しています。手術は、私が担当し日帰り手術を行っています。短時間で行うレーザー治療（SLT）や、小さな創口から行うMIGS(低侵襲緑内障手術）を導入し、クリニックでも安心な、患者さまに負担の少ない手術を実施しています。当院で行うMIGSは白内障手術と同時に行うことで、白内障と緑内障を合併している方にとても有効な手術もあります。
現在の眼科の治療は非常に安全性が高く、多くのケースで日帰り手術が可能です。手術のことで気になることがあればお気軽にご相談ください。

白内障手術併用ドレーン挿入術について

白内障手術と同時に行う緑内障手術です。白内障手術の際に作成する小さな切り口から、長さ1mm、重さは60μg（0.00006g）の極小のデバイス器具（iStent）を挿入して眼の組織に埋め込みます。これによって房水（ぼうすい）と言われる眼圧を調整する液体の排出を改善し、眼圧を下げる働きがあります。あくまで自然な排出を促すため目に優しい手術と言えます。また白内障手術と同時に行うため、視機能の改善と眼圧の改善の両方が期待できます。





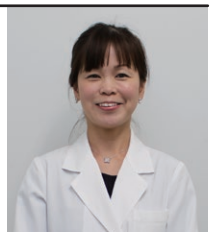
眼の組織（線維柱帯）に埋め込まれたiStent

［ 注意事項 ］

□ あくまで白内障手術と同時に行う手術で、
　既に白内障手術を受けた方は実施することはできません。
□ 緑内障の状態によっては手術が適応にならない場合もあります。

大宮・井上眼科クリニック　神経眼科外来のご案内

大宮・井上眼科クリニックは、
一般眼科外来に加え、専門外来も充実しています。
今回は、神経眼科外来をご紹介します。



野﨑 令恵 Norie Nozaki
大宮・井上眼科クリニック 院長

【神経眼科外来】

神経眼科外来では、原因不明の視力低下やいつも目に不快感があるなど一般の眼科ではなかなか理由がわからない問題に対しての診療をおこないます。当クリニックでは複眼（ものが2つに見える）を起こす病気やまぶしい、目を開けていることがつらいなどの症状のご相談や、眼瞼けいれん、顔面けいれんのボトックス治療にも力を入れています。入院や精密検査が必要な症例は、お茶の水にある井上眼科病院と連携し対応しています。上記の症状でお困りのことがあれば、お気軽にお問い合わせください。

2022年1月より、
診療時間が変更となりました。

［お電話での予約］ TEL. 048-871-8471
月～土 8：45～12：00 / 13：30～17：00 ※休診日をのぞく

変更前	変更後（2022年1月～）
木曜 13：30～16：30	水曜 9：00～12：00 13：30～16：30

いいもの「見」つけた！

先生たちが最近見つけた、身近な"いいもの"をご紹介します！

幼い頃に風邪をひくと、食べやすく栄養補給がしやすいため、よくプリンを食べていました。「見」た「目」からもおいしさが伝わり、食べると元気が出る気がして、私の昔からのお気に入りです。

井上 賢治 Kenji Inoue
医療法人社団 済安堂 理事長
井上眼科病院 院長

雪国で育ったので雪景色を「見」ると癒されます。コロナ禍で帰省することも難しいですが、しんしんと雪の降る様子をぼ～っと眺めながら雪「見」コーヒー、雪「見」酒は最高にリラックスできます。

南雲 幹 Miki Nagumo
お茶の水・井上眼科クリニック
診療技術部 部長

NEWS TOPICS / INFORMATION

グループ　第６２回日本視能矯正学会に参加しました。

２０２１年11/20（土）、21（日）の2日間にわたり「第６２回日本視能矯正学会（協会設立５０周年記念学会）」が東京国際フォーラムとwebでハイブリッド開催されました。井上眼科病院の視能訓練士であり、日本視能訓練士協会の会長である南雲 幹が本学会の学会長を拝命し、当院グループから医師と視能訓練士がオンデマンド配信を含め４演題の発表を行いました。

視能訓練士について詳細はこちら▶

西葛西　「眼炎症・ぶどう膜炎外来」を開設しました。

２０２１年11/4（木）より、西葛西・井上眼科病院にて「眼炎症・ぶどう膜炎外来」を開設いたしました。

□ 診療日：毎週木曜日 午後
※こちらの外来は予約制となっています。

□ 担当医：堀 純子（ほり じゅんこ）医師
日本医科大学 医学部 教授
日本医科大学多摩永山病院 眼科部長

詳細はこちら▶

医療法人社団 済安堂
井上眼科病院グループ
INOUYE EYE HOSPITAL GROUP

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-3 新お茶の水ビルディング 18 階
https://www.inouye-eye.or.jp/ ［広報誌に関するお問合せ］ Tel. 03-5244-5524

井上眼科だより Vol.119 ｜ 井上眼科病院グループ広報誌 2022年1月1日発行 ｜ 編集・発行／井上眼科病院 経営企画部 広報課